

海外留学室

堀江未来・柴垣史

はじめに

今年度は、海外留学室の担当者が7月1日を区切りに交代した。6月末をもって退職された三宅政子氏は、1997年から派遣留学支援体制整備を始められ、それは、国立大学における派遣留学の組織的な教育支援体制整備の先駆けでもあった。それから8年経った現在、名古屋大学においては、様々な目的で「留学したい」という希望を持った学生が情報を収集し、担当者に相談をし、目的を実現させるプロセスを支援する基礎的な体制ができあがっている。海外留学室を新しく担当することになった堀江は、このようにできあがった基盤をもとに、名古屋大学における派遣留学を量的にも質的にもさらに充実させるべく、海外留学室の活動をより活発化させたいと考えている。

非常勤スタッフの柴垣史氏は、三宅氏在職時から週1回海外留学室業務を担当しており、三宅氏から堀江への業務引き継ぎにおいては重要な役割を担っている。以下に報告する2004年度における活動のほとんどは前年度から引き継いだものであり、実施においては柴垣氏の経験に支えられる部分が大きかった。

以下に、海外留学室における2004年度の活動を、「情報提供」「個人相談」「派遣留学生に対する支援」の3つに分けて報告する。最後に、来年度以降についての課題を提起したい。

1. 情報提供

海外留学室における情報提供活動は、名大生の海外留学促進と支援の要となる。海外留学室における情報提供の形には2つあり、説明会やセミナーの形をとるものと、ホームページや資料提示によるものがある。前者の、説明会やセミナーなどを行って積極的に留学に興味のある学生を取り込もうとする活動は、三宅氏によってアウトリーチプログラムと位置づけられた。また、説明会には足を運べないが自分で情報収集を行いたいとする学生には、ホームページにおける情報や

リンク先のリソースが役に立っている。

今年度は新たに「イギリス留学説明会」を試みた。これは、プリティッシュカウンシルより講師を招き、専門家による情報提供を行ったものである。来年度以降は、同様に各国の留学情報提供機関や関連機関に講師協力を依頼し、定期的な説明会として開催したいと考えている。

セミナー・説明会・ガイダンス

新入生生活ガイダンス(一部)

日時：4月2日(金)

場所：豊田講堂

対象：新1年生

目的：名大における留学と国際交流の機会の紹介

工学部・工学研究科学生対象留学説明会

(主催：工学部・工学研究科国際交流室)

日時：4月13日(火) 16:30 - 17:30

場所：工学部1号館1階会議室

対象：工学部・工学研究科学生

目的：留学機会の紹介、情報収集・準備教育指導

参加者：61名(内訳：別表1)

海外留学入門セミナー

日時：学期中の毎週木曜日 12:15 - 12:45

場所：留学生センター201教室

対象：全学の学生・教職員

目的：留学機会の紹介、情報収集・準備教育指導

参加者：101名(年度合計。内訳：別表2)

交換留学(全学間協定)応募説明会

日時：10月5日(火) 12:10 - 12:50

場所：CALE フォーラム

対象：全学の学生、交換留学応募希望者

目的：交換留学(全学間協定)への応募に関する説明

参加者：約40名

イギリス留学説明会

日 時：11月30日（火）16：30 - 17：30

場 所：CALE フォーラム

対 象：学内外の学生・教職員，イギリス留学希望者

目 的：イギリス留学についての一般的な情報提供，
質疑応答

講 師：プリティッシュカOUNシル名古屋センター

副所長 Gemma McGoldrick 氏

参加者：11名（内訳別表3）

ホームページ運営

海外留学室ホームページ（<http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/abroad>）は、昨年度に引き続き、柴垣氏が中心となって運営した。情報更新を週1回以上行い、様々な新しい情報を出来るだけ早く、また分かりやすく提供することにつとめた。ヒット件数等は記録していないが、海外留学室主催の説明会や個人相談の申込のきっかけを「ホームページをみたから」とする利用者が増えている実感はある。また、新入生へのガイダンス時など、多くの情報を提供できない場合、「海外留学に関するホームページがある」ということだけでも伝えておくと、効果があるようだ。

来年度には留学生センターのホームページが全面的にリニューアルされることになり、この機会に海外留学情報についても整理し直し、より分かりやすいホームページにする予定である。

留学関連資料提供

海外留学室では、留学関連資料（図書、留学体験談報告書、各協定校資料等）をロビーにおき、自由に閲覧できるようにしている。しかし、場所がロビーであることなどから、貸し出しの管理等が行えず、したがって資料の更新等ができていない状態であった。そこで、新たに新規図書を購入し、貸し出し管理ができる体制を整えるよう、準備を始めた。海外留学室（104号室）は限られたスペースであるが、そこに書架をおき、閲覧スペースを作る予定である。また、情報閲覧用のパソコンを用意することが出来た。現在の留学情報は、ホームページ上で最新のものを一次情報源からとることが有効である。またオンライン出願を必要とする海外の大学も増えており、このようなニーズに対応できるようになった。

2. 個人相談

海外留学室では、学期中相談時間（週約8時間）を設け、予約なしで個別相談が受けられるようにしている。それ以外の時間や休暇中は、予約制で受け付けている。個別相談を利用する場合、海外留学入門セミナーやそれに準ずる説明会などに出席し、ある程度自分の留学計画に対する考えをまとめ、情報収集を行っていることが前提となっている。

2004年度（7月以降）、個人相談を利用したのはのべ181名であった。利用者の姿や相談に寄せられるテーマは多様である。後に述べるような、交換留学派遣が決まった学生の手続サポートのような具体的な相談もあり、その場合はこちらで答えを用意する、または情報検索の仕方を提示することで解決することが多い。

一方、多くの相談は、「留学したいがどうしたらいいかわからない」というものである。その中でも、実際の手続がわからないケースもあれば、「自分の進路において留学をどう位置づけたらいいのか分からない」「留学したいという気持ちは漠然とあるが、具体的に進めていいのだろうか」というような、不安や疑問を抱いているケースもある。そのような場合、つまり、本人が留学に対する希望と不安と疑問の中で揺れているような場合は別の対応が必要となる。留学したいが、親に反対されている、指導教員に反対されている、など、人間関係上の要因によって本人の留学計画が前に進まないというケースや、自分の理想と現実の間で取捨選択が出来ずに悩むケースもある。このような状況に対しては、こちらが答えを用意するのはふさわしくないため、本人が自分の考えや行動計画をまとめる援助を行うことを主眼としている。具体的には、基礎的なカウンセリングの手法に基づき、継続的に相談を行っている。留学の準備から実施のプロセスを進めるには、本人の強い意思が必要であり、準備段階で「自分がやる」という考えをしっかりとっておくことが重要だからである。

個人相談の他、メールによる相談も増加した。しかし、メールのやりとりで説明できる事柄には限界がある。メールで送られてくる質問には、行く通りもの文脈の可能性があり、本人の意図や希望が見えない場合が多いからである。メールでの相談を入り口とし、説明会参加や個人面談の利用をするよう働きかけている。

3. 派遣留学生に対する支援

交換留学（全学間協定）を含め、いくつかの派遣留学プログラムに参加する学生の留学手続のサポートを行っている。今年度は以下のプログラムについて、受入れ校との協議及び手続支援を行った。また、派遣が決まった学生のうち、一部に対し、出発前オリエンテーションを行った。

留学手続支援

全学間協定に基づく交換留学

イギリス プリントン大学

教育発達科学研究科 女子1名

フランス グルノーブル大学

文学部 女子2名

法学部 女子2名

フランス ストラスブール大学

法学部 女子3名

アメリカ セント・オラフ大学

法学部 女子1名

情報文化学部 男子1名

アメリカ 南イリノイ大学

情報文化学部 女子1名

アメリカ シンシナティ大学

教育発達科学研究科 女子1名

アメリカ イリノイ大学

理学部 女子1名

工学研究科 男子1名

アメリカ ノースカロライナ州立大学

法学部 女子1名, 男子1名

文学部 女子1名

経済学部 女子1名

韓国 梨花女子大学校

医学部 女子1名

ルノー財団プログラム

Programme Renault

経済学部 男子1名, 文学部 女子1名

(MBA - IP及びMaster Paristechは今年度該当なし)

ノースカロライナ州立大学夏期英語研修

期間：2004年7月6日～8月6日

参加者：法学部 男子1名

生命農学研究科 男子1名

備考：NCSU Japan Centerの奨学金により、5名分までの全額授業料（または10名分半額）が免除される。

木浦大学校夏期研修

期間：2004年8月2日～12日

参加者：法学部 男子1名, 女子2名,

工学部 男子1名

備考：名古屋大学より4名まで授業料及び宿舍費が全額免除される。

渡航前ガイダンス

フランス プログラム8

日時：5月26日（水）12：10 - 12：50

場所：留学生センター201教室

対象：2004年度フランスプログラム8 留学予定者

目的：渡航前情報提供

講師：プログラム8 留学経験者

セント・オラフ大学

日時：6月28日（月）16：30 - 17：30

場所：留学生センター206教室

対象：2004年度セント・オラフ留学予定者

目的：渡航前情報提供

講師：セント・オラフ大学 Dr.Ito

おわりに：今後の課題

異文化教育プログラムの開発・実施

海外留学室での派遣留学支援教育は、留学生相談室や短期留学部門で行っている留学生受入れと関連させることで、総合的な異文化教育プログラムとして発展可能である。特に、交換留学によって半年から1年間の留学をする学生にとって、準備期間と帰国直後の整理期間を十分に活用することで、異文化体験による学習を最大化することが出来ると考えられる。このような視点からの異文化教育プログラムを開発することは、留学生の受け入れと派遣に関わる総合的教育支援を同じ組織で行っていることのメリットを活かすことにもなるだろう。

このようなプログラムの具体的な例としては、派遣留学生に対する準備教育に短期留学生を組み合わせる

ことで、お互いの文化理解とコミュニケーション能力向上をはかるものが考えられる。堀江が来年度担当する異文化コミュニケーションの授業においては、短期留学生だけでなく一般学生にも門戸を開くことで、留学予定者が英語による授業履修を経験し、また異文化コミュニケーションの理論学習を、留学生との議論を通じて実践的に体得することを目指す予定である。また、短期留学生にとっては、日本人学生と深い議論をする貴重なチャンスとなることを期待している。

同様に、授業外でもこのような活動を促進することが考えられる。留学生の受入れサポートに留学経験者や留学予定者が関わることは、自分が経験したことやこれから経験することとの関連から、より高い共感が可能であるし、留学生にとっても心強いサポートが与えられるのではないかと。同様に、帰国報告会を開催し、帰国前の留学生のリエンターシーショック対策とすることも考えられる。さらに、このような一連の活動を一般学生にも開放することで、内なる国際化を部分的に促進することが可能となる。

また、当然ながらこのような活動を行うには、短期留学部門や教育交流部門留学生相談担当者との情報交換と緊密な連携が必須である。

海外留学室についての広報活動

名古屋大学においても、中期目標等で見られるように、派遣留学の促進は重要課題となっている。留学促進には全学的かつ長期的な取り組みが必要であるが、海外留学室としてまずしなければならぬことは、海外留学室の活動そのものを学生、教職員の間で広く周知することと考える。海外留学室の認知度がどのくらいあるのか全く想像もできないが、決して高くないだろう。

どのようなレベルであれ、「留学したい」と思い始めた学生がそのまま漠然とあきらめるのではなく、少しでも具体的な行動を起こすことが出来るように、サポートする必要がある。海外留学室の存在を知っていれば、少なくともホームページを見たり、入門セミナーに出席するという第一歩を起すことができる。そのような第1歩を踏み出している学生は、ホームページや各部局での掲示にも注意を払っていると考えられ

るが、現在の交換留学や夏期研修プログラムへの応募状況を見ていると、とても多くの学生が積極的に情報を得ているとは思えない。名古屋大学ほどの学生規模があれば、現在の交換留学の競争率はもっと高くてもよいはずである。

一方、留学したいと思い始め、情報収集を始めて見たものの、実行するには時間がなさすぎるというケールがある。例えば、交換留学に応募したいがTOEFLを受けていないために応募が間に合わない、などというケースである。これは、半年でも早くから準備のステップを理解していれば、容易にクリアできる問題である。したがって、ただ情報を与えるだけでなく、それが準備に十分間に合う時期でなければならない。新入生へのガイダンスにおいて10分間の説明時間をいただいているのは、こういう点から非常に有意義であり、ありがたい。

より多くの留学希望者が何らかの形で目的を達成できるようにしたい。また、交換留学への応募者が増えることで留学交流を質的にも量的にも拡大したい。そのためにも、まずは海外留学室の活動と、名大における留学の可能性そのものについて広く周知する働きかけが必要である。

危機管理体制の整備

海外留学・渡航に関する危機管理体制の整備もまた、全学的な取り組みが必要な課題である。今年度は、国際課と留学生センターの共同で、派遣留学生データベースの開発に着手した。これにより、交換留学生以外の海外渡航情報についてもまとめたデータを用意することが出来、海外における事件や事故発生時における学生の安否確認のために活用できる。

一方、危機回避のための教育も重要である。今年度までは、行き先別の渡航前オリエンテーションはいくつか行ってきたが、総合的なものはまだない。異文化適応やコミュニケーション、心身の健康管理についての注意などに加え、危機回避についての教育を渡航前に行くことは派遣を行う大学の責任でもある。来年度以降、このようなプログラムの開発と実施に着手したい。

表1：工学部・工学研究科「派遣留学についての説明会」参加者内訳

	1		2		3		4		M1		M2		D1		D2		D3		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人数	13		15	5	6		13	1	5		1		1		1				55	6
合計	13		20		6		14		5		1		1		1				61	

表2：海外留学入門セミナー参加者内訳

	総計	1年		2年		3年		4年		M1		M2		D1		D2		D3		他		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
文学部	13	1	4		5	1	2													2	11	
文学研究科	2									2											2	
教育学部	4		1		1			2													2	2
教育学研究科	1										1										1	
法学部	7		1	2	4																2	5
法学研究科	2										1	1									1	1
経済学部	12	4		1	2	2	1		2												7	5
経済学研究科	1										1										1	
情報文化学部	7	1				4		1	1												6	1
理学部	6	1					2	2	1												3	3
理学研究科																						
医学部（医学科）	2	2																			2	
医学部（保健学科）	1		1																			1
医学研究科																						
工学部	22	8	2	2		4	1	4	1												18	4
工学研究科																						
農学部	10		4	1	5																1	9
生命農学研究科	1									1											1	
国際開発研究科	3									2				1								3
情報学研究科	2											2										2
多元数理科学研究科																						
国際言語文化研究科	1									1												1
環境学研究科	4									2	1	1									3	1
小計	101	17	13	6	17	11	6	9	5	3	6	4	3	1							50	51
合計			30		23		17		14		9		7		1						101	

表3：イギリス留学説明会参加者内訳

	総計	1年		2年		3年		4年		M1		D1		D2		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
文学研究科	1													1			
法学部	1							1									
理学部	2	2						1									
工学部	1			1													
農学部	1					1											
国際開発研究科	1									1							
環境学研究科	1										1						
その他	2																2
小計	11	2	0	1	0	1	0	0	2	0	1	1	0	0	1	0	2
合計			2		1		1		2		1		1		1		2